

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

SER no.132; Cover, contents, and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00006016

Senri Ethnological Reports
132

SER 132

国立民族学博物館
調査報告 | **132**

**Indigenous Cultures
in the North Pacific Rim**

環北太平洋地域の先住民文化
—
岸上伸啓 編

**環北太平洋地域の
先住民文化**

Edited by
Nobuhiro Kishigami

岸上伸啓 編

National Museum of Ethnology
Japan 2015



ISSN 1340-6787
ISBN 978-4-906962-38-9 C3039

国立民族学博物館 2015

国立民族学博物館 調査報告

132

環北太平洋地域の先住民文化

岸上伸啓 編

国立民族学博物館

2015

目 次

はじめに	岸上 伸啓	1
環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する人類学研究の歴史と現状 — 日本人による文化人類学的研究を中心に —	岸上 伸啓	7
北太平洋沿岸における海獣猟の展開 — 銛・銛頭を指標として —	山浦 清	79
礼文島における海洋適応史の復元 — 国際共同研究を通じた取り組み —	加藤 博文	125
環北太平洋域諸言語の語彙的接辞	呉人 惠	145
私は世襲チーフになれるのか — カナダ、北西海岸先住民社会における世襲の排他性を破る3つの方法 —	立川 陽仁	163
サケ資源の管理権限の獲得を目指すユーコン川流域先住民社会の取り組み	井上 敏昭	181
カムチャツカ先住民の先住権とサケ利用	渡部 裕	203
アイヌ文化資源の利用と民族の主体性 — 国立アイヌ博物館建設計画のはじまりから基本構想へ —	野本 正博, 岩崎まさみ, 手塚 薫	217
アイヌ物質文化はどのような視点から研究されてきたのだろうか — 民族学研究と考古学研究とのはざま —	出利葉浩司	235
おわりに	岸上 伸啓	259
付録「国際シンポジウム・プログラム」		261
著者紹介		267

付録

国際シンポジウム・プログラム

人間文化研究機構・国立民族学博物館主催

国際シンポジウム

「北太平洋沿岸諸先住民文化の比較研究—先住権と海洋資源の利用を中心に」

日時・場所：2014年1月11日～13日，国立民族学博物館・第4セミナー室

*日英の同時通訳あり。

第1日目：2014年1月11日（土）

10:00～10:10 館長挨拶 須藤健一（国立民族学博物館）

10:15～10:55 「環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する比較研究の歴史と現状」
岸上伸啓（国立民族学博物館）

11:00～11:30 「礼文島国際フィールドスクールを通じた国際研究ネットワークの構築」
加藤博文（北海道大学）

11:35～12:05 「サケ資源の管理権限の（再）獲得を目指すユーコン川流域先住民社会の取り組み」
井上敏昭（城西国際大学）

12:05～13:10 昼食休憩

13:10～13:40 「生業権の主張においてユピートは何を守りたいのか」
久保田亮（大分大学）

13:45～14:15 「カナダ北西海岸先住民のチーフ制とサケ漁撈」
立川陽仁（三重大学）

14:20～14:50 「カムチャツカ先住民の先住権とサケ利用」
渡部裕（北海道立北方民族博物館）

14:50～15:10 Coffee Break（休憩）

15:10～15:40 「アイヌ民族による文化資源の活用とその主体性：「象徴空間」と国立博物館の行方」
岩崎グッドマンまさみ（北海学園大学），手塚薫（北海学園大学），
野本正博（アイヌ民族博物館）

15:45～16:15 「日本におけるアイヌ文化研究 過去，現在，未来」
出利葉浩司（北海道開拓記念館）

- 16:20～16:50 総合討論
討論者：羽生淳子（カルフォルニア大学バークレー校）
高倉浩樹（東北大学）

第2日目：2014年1月12日（日）

- 10:00～10:10 「趣旨と問題提起」
デイヴィッド・ケスター，岸上伸啓
- 10:10～10:50 「歴史的軌跡と現代の諸問題：カムチャツカ半島の比較研究」
デイヴィッド・ケスター（アラスカ大学フェアバンズ校）
- 11:00～11:40 「東アジア世界システムのアラスカへの流入：データのレビュー」
オーエン・K・メイソン（コロラド大学ボルダー校）
- 11:40～13:30 昼食休憩+ 展示見学
- 13:30～14:10 「島のネットワーク：アリューシャン列島におけるコミュニティーの継続性，生業と生存」
キャサリン・L／リーディ（アイダホ州立大学）
- 14:15～14:55 「生業生態と北太平洋海洋文化の展開：過去からの遺産と将来への展望」
ベン・フィッツヒュー（ワシントン大学），ウイリアム・フィッツヒュー（スミソニアン協会国立自然史博物館）
- 15:00～15:30 総合討論
討論者：クレア・アリックス（パリ大学I）
- 15:30～15:45 休憩
- 15:45～16:45 「北太平洋地域調査の協働と学会設立のための全体討論」
全員

2014年1月13日（月）

- 10:00～10:40 「北太平洋地域における先住民によるグーグル・マッピングと景観の持続可能性」
ベネディクト・J・コロンビ（アリゾナ大学）
- 10:45～11:25 「インディアンのための場所がない：カナダ国ブリティッシュコロンビア州北部海岸における開発にまつわる話」
チャールズ・メンジーズ（ブリティッシュコロンビア大学）
- 11:30～12:10 「環太平洋ニシン文化の再興について」
トーマス・F・ソントン（オックスフォード大学），シンゴ・ハマダ（インディアナ大学）
- 12:10～13:30 昼食休憩

- 13:30~14:10 「カナダ北西海岸地域の博物館と先住諸民族との協働調査」
ジェニファー・クラマー (ブリティッシュコロンビア大学)
- 14:15~14:55 「北太平洋沿岸地域における先住民文化の再興と恒久化」
スヴェン・ハーカンソン (ワシントン大学)
- 15:00~16:15 総合討論
討論者：ピーター・シュヴァイツァー (ウィーン大学)

シンポジウム実行委員：

- デイヴィッド・ケスター (アラスカ大学フェアバンクス校)
岸上伸啓 (国立民族学博物館)
ベネディクト・J・コロンビ (アリゾナ大学)

おもな資金・便宜提供機関等：

- * 人間文化研究機構 (機構長裁量経費)
- * 国立民族学博物館
- * アラスカ大学フェアバンクス校人類学部と米国科学財団 (NSF) (代表者：デビッド・ケスター)
- * 日本学術振興会・科学研究費補助金・基盤 (B) 「北アメリカ地域における先住民生存捕鯨と先住権」 (課題番号：21401045, 代表者：岸上伸啓)

The National Institutes for the Humanities and National Museum of Ethnology
International Symposium

“Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on
Indigenous Rights and Marine Resource Utilization”

Time・Place: January 11–13, 2014, Fourth Seminar Room of the National Museum of Ethnology,
Osaka, Japan

* A simultaneous translation is available.

The First Day: January 11, 2014

- 10:00~10:10 Opening Speech by Director-General Ken'ichi SUDO (National Museum of Ethnology)
- 10:15~10:55 The History and Present Situation of Comparative Studies of Indigenous Cultures along the North Pacific Coast Nobuhiro KISHIGAMI (National Museum of Ethnology)
- 11:00~11:30 Development of an International Research Network through the International Field School on Rebun Island Hirofumi KATO (Hokkaido University)
- 11:35~12:05 Activities to (Re) acquire Sovereign Rights of Salmon Resource Management by Indigenous Societies along the Yukon River.
Toshiaki INOUE (Josai International University)
- 12:05~13:10 Lunch Break
- 13:10~13:40 What Do Yupiit Want to Protect in Claiming Subsistence Rights ?
Ryo KUBOTA (Oita University)
- 13:45~14:15 Chieftainship and the Salmon Food Fishery on the Northwest Coast of Canada
Akihito TACHIKAWA (Mie University)
- 14:20~14:50 Indigenous Rights and Utilization of Salmon among the Indigenous Peoples of Kamchatka
Yutaka WATANABE (Hokkaido Museum of Northern Peoples)
- 14:50~15:10 Coffee Break
- 15:10~15:40 Utilization of Cultural Resources and the Ainu Initiatives; Progress of National Ainu Museum Projects
Masami IWSAKI-GOODMAN (Hokkai Gakuen University), Kaoru TEZUKA (Hokkai Gakuen University), and Masahiro NOMOTO (Ainu Museum)

15:45~16:15 Ainu Studies in Japan, Past, Present and Future from the Viewpoint of Japanese Archaeology

Koji DERIHA (Historical Museum of Hokkaido)

16:20~16:50 General Discussion

Hiroki TAKAKURA (Tohoku University) , Junko HABU (University of California, Berkeley)

The Second Day: January 12, 2014

10:00~10:10 Remarks and Planning for Discussions – Nobuhiro KISHIGAMI and David KOESTER

10:10~10:50 Historical Trajectories and Contemporary Issues: Comparative Studies of Kamchatka Peninsula

David KOESTER (University of Alaska, Fairbanks)

11:00~11:40 The Entry of the East Asian World System into Alaska: A Review of the Data

Owen K. MASON (University of Colorado, Boulder)

11:40~13:30 Lunch Break + Visiting Exhibition Halls

13:30~14:10 Island Networks: Community Persistence, Subsistence and Survival in the Aleutian Islands

Katherine L. REEDY (Idaho State University)

14:15~14:55 Subsistence Ecology and the Development of North Pacific Maritime Cultures: Legacies from the Past, Prospects for the Future

Ben FITZHUGH (University of Washington) and William FITZHUGH (National Museum of Natural History, Smithsonian Institution)

15:00~15:30 General Discussion

Discussant: Claire ALIX (University of Paris I)

15:30~15:45 Coffee Break

15:45~16:45 Group Discussion – Current Prospects for Collaboration, Obstacles and Opportunities for Establishing a North Pacific Research Association

The Third Day: January 13, 2014

10:00~10:40 Indigenous Google-Mapping and the Sustainability of Landscapes across the North Pacific

Benedict J. COLOMBI (University of Arizona)

10:45~11:25 No Place for Indians: A Story about Development on the North Coast of

British Columbia, Canada

Charles MENZIES (University of British Columbia)

- 11:30~12:10 Completing the Circle in Restoring Pacific Rim Herring Cultures
 Thomas F. THORNTON (University of Oxford) and Shingo HAMADA
 (Indiana University)
- 12:10~13:30 Lunch Break
- 13:30~14:10 Collaborative Research between Museums and Indigenous Peoples of
 Canada's Northwest Coast
 Jennifer KRAMER (University of British Columbia)
- 14:15~14:55 Revitalization and Perpetuation of Indigenous Cultures in the North Pacific
 Rim
 Sven HAAKANSON (University of Washington)
- 15:00~16:15 General Discussion
 Discussant : Peter SCHWEITZER (University of Vienna)

Symposium Organizers:

David KOESTER (University of Alaska, Fairbanks)

Nobuhiro KISHIGAMI (National Museum of Ethnology, Osaka, Japan)

Benedict J. COLOMBI (University of Arizona)

Major Sponsors:

*The National Institutes for the Humanities, Japan

*National Museum of Ethnology, Osaka, Japan

*Department of Anthropology, University of Alaska Fairbanks, with support from the National Science Foundation, USA: (David KOESTER)

*Japan Society for the Promotion of Science (JSPS) , Grant-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI) (B) : Aboriginal Subsistence Whaling and Indigenous Rights in North America (Research Project Number: 21401045, Nobuhiro KISHIGAMI)

著者紹介 (50音順)

井上敏昭 (いのうえ としあき)

城西国際大学・教授, 筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科単位取得退学, 専門は文化人類学。アラスカ先住民グイッチンの伝統的相互扶助(助け合い)の意義, 開発・環境問題と生活権の関係, 自然資源の管理と利用, ライフスタイルや食文化とアイデンティティの関係などについて研究。共著書に『開発と先住民族』(共著)(2009年, 明石書店), 『海洋資源の流通と管理の人類学』(共著)(2009年, 明石書店), 『北の民の人類学 強国に生きる民族性と帰属性』(共著)(2007年, 京都大学学術出版会)などがある。

岩崎まさみ (いわさき まさみ)

北海学園大学・教授・博士(人類学), アルバータ大学人類学部博士課程修了, 専門は文化人類学。日本における小型沿岸捕鯨に関する研究, 先住民族の生業及び資源管理・食文化に関する研究を行い, 現在ユネスコ無形文化保護条約に関する研究を行っている。主な著書として *Indigenous Peoples' Food Systems and Well-being: Interventions and Policies for Healthy Communities* (共著)(2013年, Food and Agriculture Organization of the United Nations), 『人間と環境と文化』(2005年, 清水弘文堂)などがある。

加藤博文 (かとう ひろふみ)

北海道大学アイヌ・先住民研究センター・教授, 筑波大学大学院歴史人類学研究科博士課程単位取得退学, 専門は考古学で先住民考古学, 北方狩猟採集民の考古学, 海洋適応について調査研究を行っている。著書や共著書に『シベリアを旅した人類』(2008年, 東洋書店), 『北東アジアの歴史と民族』(2011年, 北海道大学出版会), "*Indigenous Heritage and Tourism: Theories and Practices on Utilizing the Ainu Heritage*" (2013年, 北海道大学)などがある。

岸上伸啓 (きしがみ のぶひろ)

国立民族学博物館・教授, 博士(文学), マッギル大学人類学部博士課程中退, 専門は文化人類学で, カナダ・イヌイットの食物分配や社会変化, 都市イヌイットの生活, 北アメリカ先住民の捕鯨文化について調査。著書や編著書に『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』(2007年, 世界思想社)や『捕鯨の文化人類学』(2012年, 成山堂書店), 『クジラとともに生きる アラスカ先住民の現在』(2014年, 臨川書店)などがある。

呉人 恵 (くれびと めぐみ)

富山大学人文学部・教授，博士（文学），東京外国語大学大学院外国語学研究科修士課程修了，専門は言語学，コリヤーク語学。著書に『危機言語を救え！ツンドラで滅びゆく言語と向き合う』（2003年，大修館書店），『コリヤーク言語民族誌』（2009年，北海道大学出版会），『探検言語学 ことばの森に分けいる』（2014年，北海道大学出版会，呉人徳司との共著），訳書に『怒れる神との出会い 情熱の言語学者ハリントンの肖像』（1992年，三省堂）などがある。

立川陽仁 (たちかわ あきひと)

三重大学・教授，博士（社会人類学），東京都立大学単位取得後満期退学，専門は社会人類学で，カナダ北西海岸部の先住民民族，クワクワカワクウの経済活動，開発，リーダーシップ，アートについて調査。主な業績として『カナダ先住民と近代産業の民族誌』（2009年，御茶の水書房），「北西海岸先住民の現代における接待について」（2014年，『人文論叢』），「現代カナダにおける北西海岸先住民の生業活動」（2008年，『立教アメリカン・スタディーズ』）などがある。

手塚 薫 (てづか かおる)

北海学園大学・教授，博士（文学），早稲田大学大学院文学研究科単位取得退学，専門は文化人類学と考古学。北海道アイヌや千島アイヌの生業，交易，儀礼などを環北太平洋地域の諸民族との交流などとの関連から研究。著書や論文に『アイヌの民族考古学』（2011年，同成社）や「千島列島における集落生業形態の考察」『比較考古学の新天地』（2010年，菊池徹夫編，同成社），「Interaction between the Ainu of Hokkaido and Honshu Japanese during the Past 1,000 Years」『Senri Ethnological Studies No.73』（National Museum of Ethnology, 2009年），「千島列島における先史文化の適応と資源獲得・流通の検討」（2010年，『人文論集』第46号）などがある。

出利葉浩司 (でりは こうじ)

北海道博物館（旧北海道開拓記念館）学芸員。北海道大学文学部卒業。専門は博物館民族学，北方地域民族学。毛皮獣狩猟用の罟や漁具など，アイヌ民族を中心とした物質文化を北東アジアの歴史的枠組みから研究。また在外アイヌ資料の所在調査も実施。主な論文として，「アイヌの伝統的漁具（マレク）の成立背景に関する一試論」（1989年，『物質文化』51号）や「近世末期におけるアイヌの毛皮獣狩猟活動について 毛皮交易の視点から」（2002年，佐々木史郎編『国立民族学博物館調査報告』34），「Trade and the Paradigm Shift in Research on Ainu Hunting Practices」（2014年，Mark J. Hudson他編，*Beyond Ainu Studies: Changing Academic and Public Perspectives*, University of Hawai'i Press）などがある。

野本正博 (のもと まさひろ)

アイヌ民族博物館・館長。専門はアイヌ研究。アイヌ舞踏の担い手でもあり、アイヌ文化の復興活動にも従事。著作に、「現代に生きるアイヌのサケ利用文化」北海道立北方民族博物館編『北方における漁撈と文化変容の関係——サケをめぐる文化——(第12回北方民族文化シンポジウム報告)』(1998年, (財)北方文化振興協会) などがある。

山浦 清 (やまうら きよし)

立教大学・名誉教授, 博士(文学)。東京大学考古学専攻博士課程中退。日本列島を含む北太平洋沿岸の先史海獣狩猟文化に関心を持ち, 特に回転式銚頭の型式学的研究を行ってきた。著書として『北方狩猟・漁撈民の考古学』(2005年, 同成社) などがある。

渡部 裕 (わたなべ ゆたか)

北海道立北方民族博物館・元学芸員。農学修士, 専門は北方民族学で, ロシア・カムチャツカにおいてサケ漁やトナカイ遊牧, 狩猟など先住民の伝統的な経済活動や日本人漁業者と先住民との接触, さらに現代のカムチャツカ先住民の経済活動などについて調査を行ってきた。著作に, 「カムチャツカ先住民の文化接触——北洋漁業と先住民の関係」(2001年, 『北海道立北方民族博物館研究紀要』10), 「カムチャツカ先住民社会とサケ資源の分配・流通——その歴史の変遷と現状」(岸上伸啓編著『海洋資源の流通と管理の人類学』2008年, 明石書店), 「カムチャツカ半島沿岸先住民のシロイルカ猟について——北東アジアにおけるその位置づけ」(2012年, 岸上伸啓編, 『捕鯨の文化人類学』, 成山堂) などがある。

Senri Ethnological Reports (最新号)

当館のウェブサイトにてバックナンバーのPDFをダウンロードすることができます。

<http://ir.minpaku.ac.jp/dspace/handle/10502/49>

- No.131 カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題——国立民族学博物館所蔵のイヌイトおよび北西海岸先住民の版画コレクションをとおして (2015; 齋藤玲子編; 日本語)
- No.130 梅棹忠夫の内モンゴル調査を検証する (2015; 娜仁格日勒編; 日本語)
- No.129 *Asian Museums and Museology 2014: International Workshop on Asian Museums and Museology in Thailand* (2015; eds. Naoko Sonoda, Kyonosuke Hirai, Jarunee Incherdchai; 英語)
- No.128 *Культурное наследие бурят, эвенков и семейских: Предметы материальной и духовной культуры из коллекций Этнографического музея народов Забайкалья (Республика Бурятия, Россия)* (2015; Шяггранаоуа О. А. ・佐々木史郎編; ロシア語・英語)
- No.127 近代社会における指導者崇拜の諸相 (2015; 韓敏編; 日本語)
- No.126 バウイナンガ・アボリジナル組合の議事録 (1978～1994) から見る対アボリジニ政策とインフラ整備の歴史——マニングリダと周辺アウトステーションの活動史 (2015; 久保正敏・堀江保範編著; 日本語)
- No.125 *Asian Museums and Museology 2013: International Research Meeting on Museology in Myanmar* (2015; eds. Naoko Sonoda, Katsumi Tamura, Nu Mra Zan; 英語)
- No.124 土方久功日記V (2014; 土方久功著, 須藤健一・清水久夫編; 日本語)
- No.123 *Некоторые археологические находки Монголо-советской экспедиции под руководством С. В. Киселева: Городище Каракорум, коллекция Государственного Эрмитажа* (2014; Редактор Юки Конагая, Автор Ю. И. Елихина (小長谷有紀編, J. I. エリーヒナ著); ロシア語・英語)
- No.122 梅棹忠夫のモンゴル調査 ローマ字カード集 (2014; 小長谷有紀編; 日本語)
- No.121 *Mongolia's Transition from Socialism to Capitalism: Four Views* (2014; Interviews Conducted by Yuki Konagaya and I. Lkhagvasuren, Translated by Mary Rossabi. Edited and Introduced by Morris Rossabi; 英語・モンゴル語)
- No.120 *Healing Alternatives: Care and Education as a Cultural Lifestyle* (2014; ed. Nanami Suzuki; 英語)
- No.119 20世紀におけるプリヤート人たち——中国内モンゴル自治区フルンボイルにおける口述史 (2014; 小長谷有紀・サラングレル・ソヨルマ編; モンゴル語・日本語)

[国立民族学博物館刊行物審査委員会]

須藤健一 館長
岸上伸啓 副館長
吉田憲司 副館長
西尾哲夫 民族社会研究部
池谷和信 民族文化研究部
寺田吉孝 先端人類科学研究部
鈴木七美 研究戦略センター（研究出版委員長）
野林厚志 文化資源研究センター

平成27年12月1日発行

国立民族学博物館調査報告 132

編者 岸上伸啓

発行 人間文化研究機構
国立民族学博物館
〒565-8511 吹田市千里万博公園10-1
TEL. 06(6876)2151(代表)

印刷 株式会社 遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL. 06(6304)9325(代表)
